


# 透視像



初芝澄雄

## 温暖化の推移

先頃オーストラリアの山火事が、大変ニユースとなりました。我々は南方と言うと暑い国と思いますが、南半球では赤道に近い北側が高温であり、第一、地図が日本と違って地図の上方に南極が位置するのも驚きですが、オーストラリアで言えば北方が暑いはず。所がメルボルンの辺りが四十五度にもなり、山火事が多発して我々を驚かせました。地元のニユース局が伝える所では、わが国はあまり温暖化を起さすような事はしていないのに、今度の事態は温暖化と関係が深いと思われるので、北半球の国々の責任が問われると述べていました。

話は飛びますが、今年の桜の開花は早く、これも話題となりました。温暖化のためと言われています。ところが聞く所

では今は開花の時期が年々早くなりますが、花そのものが今のように咲かなくなるかもとのニユースには驚きました。なんでも桜の開花は冬に何回かの寒波の影響により一定の刺激を経験しないと、開花がうまくゆかなくなるためのようです。インドネシアにもヒマラヤ桜があり、この開花にも一定の寒波の訪れがないと花が開かないとのニユースを聞きました。暖かくなって花期が早くなるのに、とんだところに温暖化の問題があることを知り驚いています。

さて私の田舎は干葉ですが、土地の人の話で、昭和の時代の田んぼの稲は現在の干葉には無くて、今は北海道で作られているとの事でした。外見は変わらないと思っていました。これも温暖化の害が報じられてきていますが、最近のニユースを思つにつけ、温暖化の防止に全世界が取り組まなければならぬ事を痛感しました。日々のニユースから考えさせられる事が多くなりそうです。

## 編集後記

編集部

4月は各界で新しいスタートのとき。医家芸術も元気に歩き出しました。本誌冒頭にある各部のお知らせの一部に各部長のご挨拶を載せました。本来なら個別に出展要項と一緒に送りますが、今回は部長の決意を表わしてもらいました。

世間は意外と狭いですね。いえ、肩身を狭く……という意味ではありません。市田隆文先生の東医体の話、あるとき貴方がいたのですか」という懐かしさは編集子も朝毎読の野球大会で経験済み。

死をどう迎えるか。福晶さんの「比翼の翼」は先立つた夫人の許へ喜んで旅立てる幸せ。夫婦愛はじめ親子の愛情が稀薄な今日、羨ましいお話です。終末期医療の問題を追究している新村富士夫先生の原稿には、自ら延命措置を拒否した作家の例、生きる、生かす、生かされる……最期とどう向き合つか。いえ、まず今年度もお元気で、それが問題です。( )